

第三種郵便物認可
平成 28 年 9 月 27 日(火曜日増刊)

平成二十八年九月二十七日
A J U 通巻一二三六一号

A
J
U

みずほ

NPO 法人脳外傷友の会みずほ
会報 第 69 号



2016 年 9 月 27 日
NPO 法人 脳外傷友の会みずほ発行
〒460-0021
名古屋市中区平和 2-3-10
仙田ビル

電話/FAX 052-253-6422
メールアドレス npo-mizuho@miracle.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www.npo-mizuho.com>

昭和五十四年八月一日第三種郵便物認可
(毎週火曜日発行)



目 次

かわいい子には旅をさせよ	2
事務局より	3
我が子・家族の経過と現状	4
企画グループ 若い失語症者の集い	6
脳外傷リハビリテーション講習会 案内&申し込み	7
キッズプラス ミラクル&レディーズの会 地区会だより	9
ワークハウスみかんやまだより	11
お知らせ&報告	14

かわいい子には旅をさせよ

脳外傷友の会みずほ理事長 吉川雅博

私が大学に赴任したのが平成12年ですから約16年前になります。私の長男が小学校1年生でした。そのころは大学の入学式や卒業式で、学生の親御さんの姿を見たという記憶はありませんでした。親御さんが大学にいらっしゃっていたのかもしれませんが、目立つ存在ではなかったことはまちがいないと思います。ところが、5・6年前くらいからでしょうか、入学式や卒業式に両親そろって大学にいらっしゃる方が目立つようになりました。私が勤務する大学では、式に参加する学生だけで、講堂はほぼ満員になってしまうので、保護者は大教室で式の模様を中継画面で見いただいています。このような状況は全国の大学でも同じようです。

入学式に親御さんが参加することが当たり前という感覚について、私は現代の若者の自立を阻む世間の傾向を象徴する現象であるとみています。大学生の年齢は18歳から22歳です。18歳といえば、選挙年齢も18歳となり、さらに日本も成人年齢を引き下げ、18歳を成人とする民法の改正が予定されています。

このように大人とみなすことができる大学生に対し、親をはじめ大学も「手取り足取り」の対応をすることが求められるようになってきていると感じます。失敗から学ぶことも多いはずなのに、失敗しないように細かいことまで親が手を出し口を出す傾向が強まっているように感じます。失敗からはいろいろなことを学ぶことができます。見守ることも重要な支援の方法ですが、実は見守ることは簡単ではありません。障害の有無にかかわらず、わが子に対して、「かわいい子には旅をさせよ」の実践をおすすめします。



『4月上旬にピークを迎えた大学の入学式。学生の親たちの参加が年々増えており、大学は手厚く対応した。親たちの存在感は、大学の「出口」である就職活動でも大きい。「オヤカク」(親に確認)という言葉が、企業の採用担当者の中で常識になりつつある。・・・(2016.4朝日新聞掲載)』といった記事もありました。親として不思議に感じる世代ですが、障害をもつわが子にどこまで(程度や時期、タイミング)サポートするか、年齢や障害の度合いに応じた親子のかかわり方を見つめなおすことはとても必要だと感じました。

(高次脳機能障害を抱える息子の親)

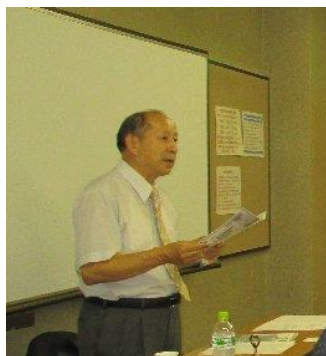




9月10日(土) 第1回 家族勉強会を行いました

「よりよい家族関係を学ぶパート2～エゴグラム(自分の自我状態)～」

講師:犬飼 三郎氏 津島カウンセリングセンター主事



昨年に続き犬飼先生にお話を伺いました。参加者が 32 名、5 グループに分かれてスタート。障害者差別解消法について説明があり、実際に差別をうけた経験はないかなどを話し合いました。今回のテーマ、自分を知り自分を生かすため個々のエゴグラムの分析を試み、それぞれの項目ごとに合計点を出し折れ線グラフで自分を分析しました。自分自身を見つめる機会を設けることができ、和やかな雰囲気勉強会を終えることができました。犬飼先生

ありがとうございました。

参加された方々の感想の一部です。

- 自分を分析できたのでよかった。 ●グループで取り組むことで意見交換が密になったが時間が短かった。
- 初めてエゴグラムで自分の自我を見つめることができ良かった。 ●エゴグラムで自分の意外な点がわかり、改善点もわかったのでとても参考になった。
- 障害者差別解消法を知らなかったので参加して良かった。 ●自分の中の本当の気持ちが表に表れてうすうす気がついていたものの改めて考えさせられた。 ●グループ内の意見交換等の時間がもう少しあってほしかった。 ●また犬飼先生の勉強会に参加したいです。



◇ 第2回家族勉強会 ◇

- テーマ：地域生活支援～「一人暮らし」挑戦事例から ■ 講師：阿部順子氏
- 内容：ナオヒトさんの一人暮らしを支援した様子を DVD で視聴しながらポイントを解説します。ナオヒトさんの成長ぶりから、態度や行動は人とのかかわりの中で形成されることがわかります。地域生活支援は単に何かができるようにすることではなく、社会的な能力を回復していくプロセスを支援するリハの第4のステージではないかと思います。

日時：H29年1月14日(土) 13:30～15:30 (受付 13:00)

場所：ワークハウスみかんやま 2F

参加申し込み：H29年1月6日(金)までに

電話・FAXもしくはメールで、みずほ事務局まで